

平成 29 年度 文部科学省

男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業

「女性の学びを通じた社会参画のための保育環境
整備とキャリア形成支援の一体的な取組推進に係る
実証的な調査」

事業報告書

平成 30 年 3 月

株式会社いわきテレワークセンター

目次

第1章 事業の概要	2
1.1 事業の背景	2
1.2 事業の目的	4
1.3 事業の実施体制	4
1.4 実施スケジュール	5
第2章 事業報告	6
2.1 研究会の開催	6
2.2 女性の意識調査	8
2.3 企業意識アンケート調査	14
2.4 リカレント教育カリキュラムの作成	23
2.5 いわき市内保育施設調査	51
2.6 セミナーの実施	55
第3章 本事業の成果	60

第1章 事業の概要

1.1 事業の背景

■改善されつつあるM字カーブ

日本の女性の労働力率は、子育て期の30歳代で低下する「M字カーブ」を描くとされている。しかし、平成29年度「男女共同参画白書」によると、現在も「M字カーブ」は続いているが、以前に比べ、カーブは浅くなっている（図1）。平成28年では、25～29歳の労働力率は81.7%で、年齢階級別で最も高い。一方、M字の底は35～39歳で、71.8%である。

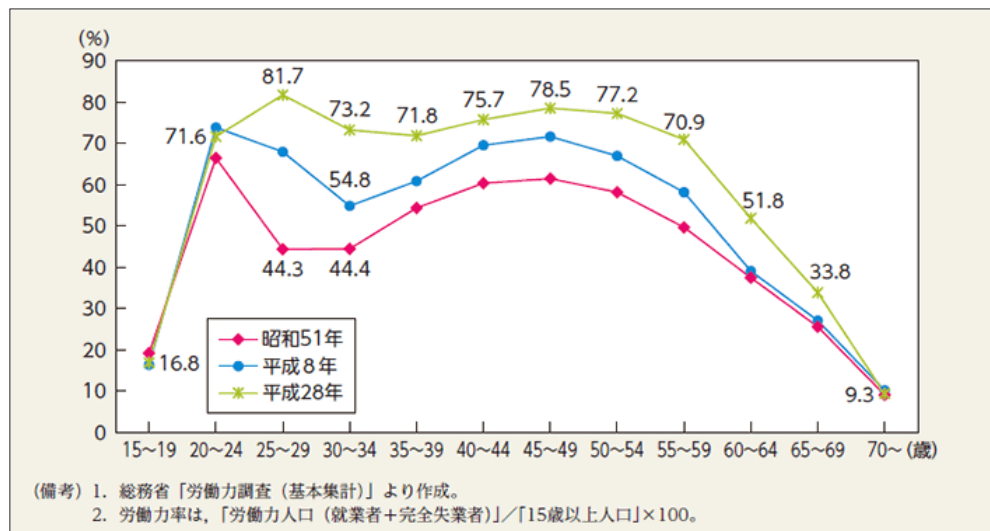


図1 「女性の年齢階級別労働力率の推移」

(出典:平成29年度「男女共同参画白書」 内閣府男女共同参画局)

ちなみに海外諸国では、日本と韓国は「M字カーブ」を描いているが、スウェーデン、ドイツなどは子育て期でも労働力率が下がらない「逆U字カーブ」を描いている。

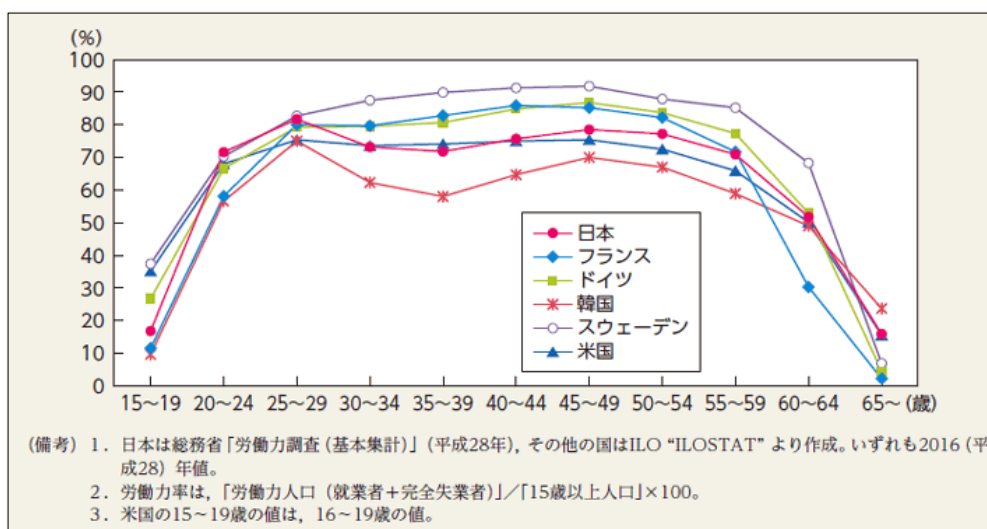


図2 「主要国における女性の年齢階級別労働力率」

(出典:平成29年度「男女共同参画白書」 内閣府男女共同参画局)

■保育環境の整備

子育て期の女性が働き続けるには、保育環境の整備が求められているが、とくに都市部では待機児童問題が大きな課題となっている。

また、女性自身が子育て中は、自分の状況に合わせて働きたいと考えている人が多い。

■リカレント教育の必要性

「一億総活躍社会」を実現するためにも、総合職、専門職として勤務経験がある女性が、セカンドキャリアを身につけ、ビジネスリーダーとして働くためのリカレント教育が求められている。

しかし、女性が育児のためにいったん離職した後、再就職したり、元の職場に復帰したいと思っても、5年以上ブランクがあると、ビジネス環境が様変わりしている。パソコンの操作をはじめ、求められるスキルが大きく異なっている。

■地方における問題

地方都市では、とくに若い女性の流出が進み、地場産業は活力を失いつつあり、少子高齢化が加速している。労働力不足が深刻化する一方、子育てしながら女性が働くことへの抵抗感もある。

被災地では、復興に向けてまだまだ課題が山積しており、女性の力を活かした復興、新しいビジネスの創生が求められている。

1.2 事業の目的

本事業の趣旨・目的は以下の通りである。

1. 離職した女性の復職・再就職支援、社会人の学び直しを支援する地域のモデル企業を抽出し、企業のニーズを調査する。
2. 女性の復職支援及びキャリア形成支援を推進するため、女性の意識改革やマインド形成に有効な「リカレント教育カリキュラム」(案)を検討する。
3. 女性が学びや仕事と育児の両立ができる保育環境を実現するために、地域の課題を検討する。

以上から、男女共同参画社会の実現を目指し、男女がともに子育てしながら「安心して、学び、働く」ことができる環境整備を一体的に推進するために、実現可能な具体的方策を検討する。

1.3 事業の実施体制

○本事業の実施体制は、下図の通りである。

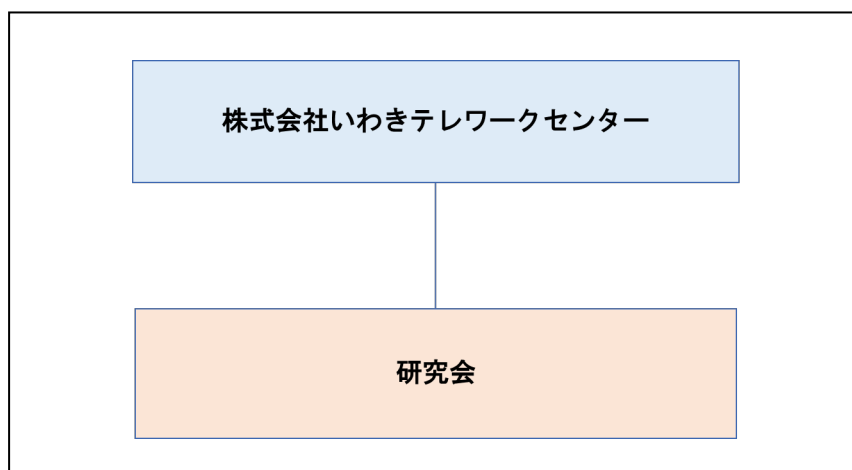


図3 実施体制

第2章 事業報告

本事業における事業内容は下記の通りである。

- ①研究会の開催（開催回数：3回）
- ②女性の意識調査
- ③企業意識アンケート調査
- ④リカレント教育カリキュラムの作成
- ⑤いわき市内保育施設調査
- ⑥セミナーの実施

2.1 研究会の開催

いわき市の企業・大学・行政関連団体と連携し、「女性の学び支援・キャリア形成・再就職支援」を推進するために、研究会を組織化した。

とくにリカレント教育のカリキュラムを企画するにあたり、大学、自治体、企業、女性経営者などに参加していただき、意見を聞いた。

2-1-1 第1回研究会

第1回研究会の日時、議題、討議内容は表2の通りである。

表2 第1回研究会の討議内容

日 時	平成29年11月15日（水）13：30～15：30
参加者	研究会委員12名＋ゲスト1名
議 題	①研究会委員紹介 ②事例紹介「女性活躍推進の考え方と現状報告」 ③「女性の学び支援及び活躍推進に伴う企業意識アンケート調査」の実施報告 ④リカレント教育カリキュラム（案）についての説明 ICT関連の基礎スキルについては、すでに習得済みと想定し、専門家を対象にした教育カリキュラムを企画したが、いわき市においては、専門的すぎるのではないかとの意見が出された。 ⑤意見交換

2-1-2 第2回研究会

第2回研究会の日時、議題、討議内容は表3の通りである。

表3 第2回研究会の討議内容

日 時	平成30年1月17日（水）15：00～17：00
参 加 者	研究会委員14名
議 題	①いわき市の保育環境整備について ②リカレント教育プログラム（案）についての説明 ③教育カリキュラム（案）についての意見交換

2-1-3 第3回研究会

第3回研究会の日時、議題、討議内容は、表4の通りである。

表4 第3回研究会の討議内容

日 時	平成30年2月6日（水）13：00～15：00
参 加 者	研究会委員15名
議 題	①女性の活躍に期待すること ②リカレント教育プログラム（案）についての説明 ③意見交換

2.2 女性の意識調査

リカレント教育の教育プログラムを作成するにあたり、いわき市の女性の意識を把握する必要がある。

いわき市は、平成 26 年度に「男女共同参画に関する市民意識調査」を実施した。同じく福島県も「男女共同参画・女性の活躍促進に関する意識調査」を県内全域の女性を対象に実施している。

2.2.1 女性の意識調査の概要

平成 26 年度「男女共同参画に関する市民意識調査」 調査実施概要

- ・実施機関：いわき市
- ・調査対象者：2,000 人（市内在住の 20 歳以上の男女から無作為に抽出）
- ・調査期間：平成 26 年 7 月 9 日～8 月 8 日
- ・調査方法：郵送法による自記式のアンケート調査
- ・回答者数：653 人（有効回収率 32.7%）
- ・調査項目：ふだんの生活、結婚や出産、子育て、仕事、女性の社会進出など

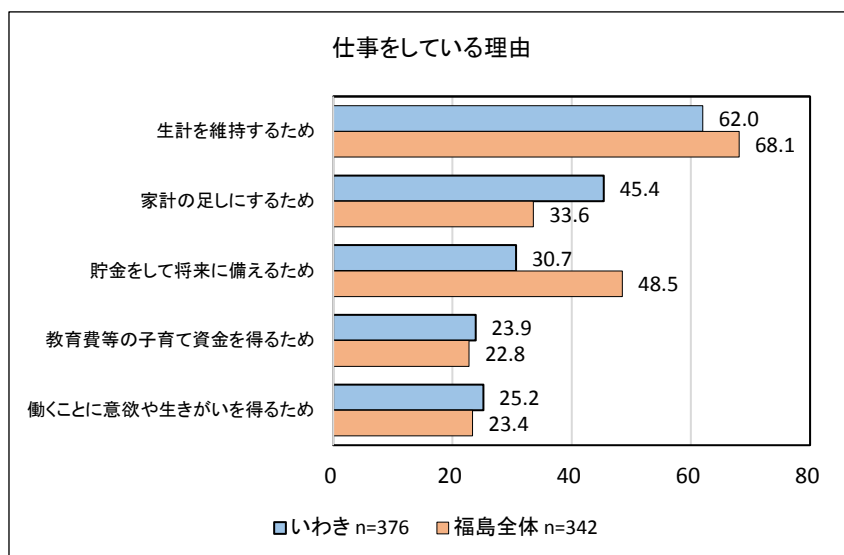
平成 26 年度「男女共同参画・女性の活躍促進に関する意識調査」 調査実施概要

- ・実施機関：福島県
- ・調査地域：福島県全域（34 市町村を抽出）
- ・調査対象者：2,000 人（県内在住の 20 歳以上の男女から無作為に抽出）
- ・調査方法：郵送法による自記式のアンケート調査
- ・調査期間：平成 27 年 1 月 5 日～1 月 16 日
- ・回答者数：744 人（有効回収率 37.2%）
- ・調査項目：男女の地位の平等感、男女の生き方について、家庭、結婚、結婚観女性の活躍促進など

2.2.2 女性の意識調査の結果

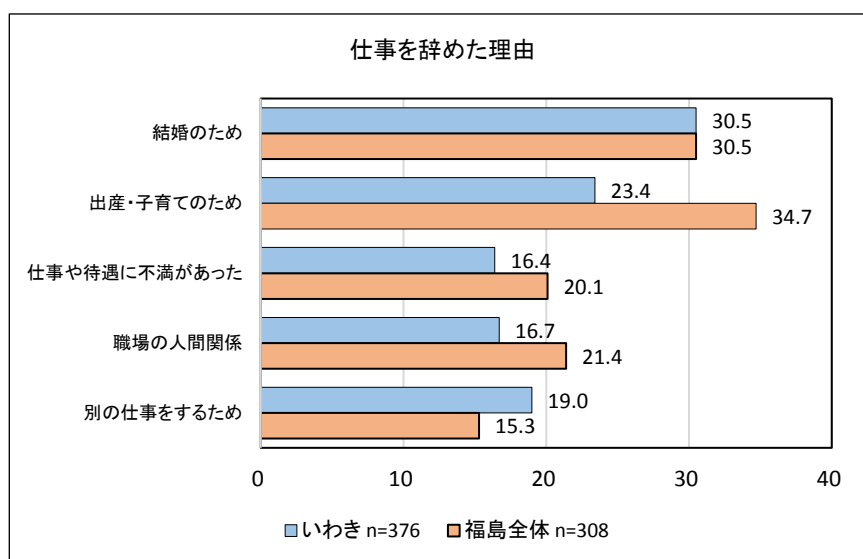
この2つの報告書から、女性が仕事に対してどのように考えているのかを、「いわき市の女性」と「福島県全域の女性」の考えを比較した。

(1) 仕事をしている理由（複数回答）



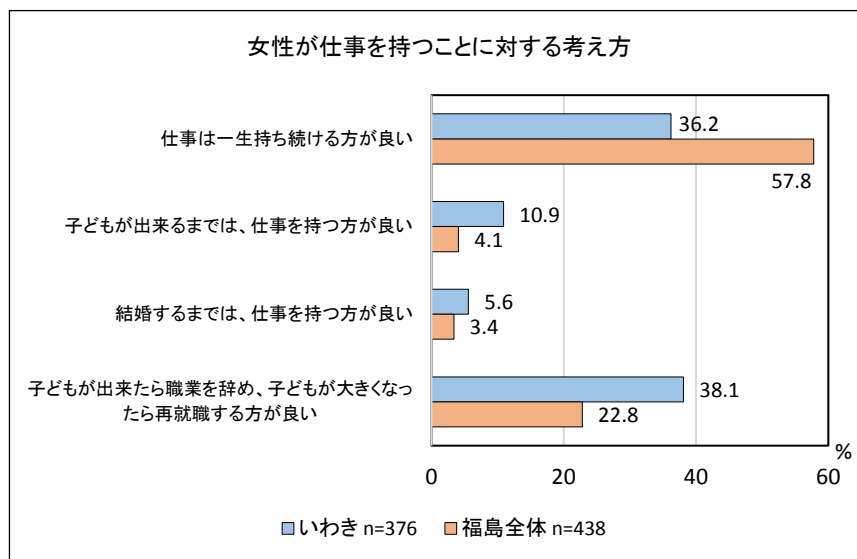
「仕事をしている理由」として、いわき市・県内全域ともに、「生計を維持するため」が最も多いが、いわき市では、県内全域において次に多い「貯金をして将来に備えるため」よりも、「家計の足しにするため」の回答が多い。

(2) 仕事を辞めた理由（複数回答）



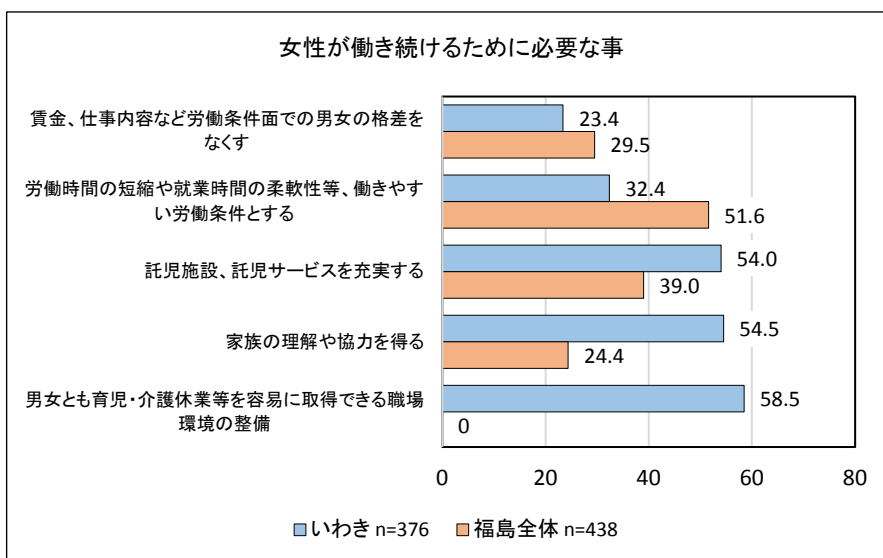
「仕事を辞めた理由」として最も多い理由として、県内全域では「出産・子育てのため」であるが、いわき市では「結婚のため」であり、結婚と同時に退職する割合が高い。

(3) 女性が仕事を持つことに対する考え方



「女性が仕事を持つことに対する考え方」で、最も多い回答は、いわき市では「子どもが出来たら職業を辞め、子どもが大きくなったら再就職する方が良い」（※平成 21 年度調査の回答数値）で、県内全域では、「仕事は一生持ち続ける方が良い」であった。

(4) 女性が働き続けるために必要な事（複数回答）

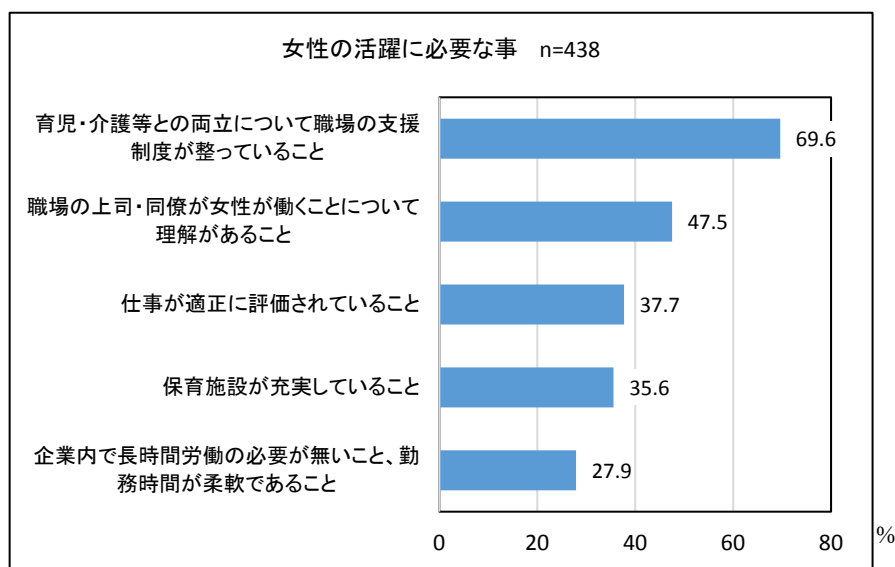


「女性が働き続けるために必要な事」で、いわき市で最も多い回答は、（※県内全域で調査無し）「男女とも育児・介護休業等を容易に取得できる職場環境の整備」であり、県内全域では、「労働時間の短縮や就業時間の柔軟性等、働きやすい労働条件とする」であった。

いわき市と県内全域と比較をすると、いわき市においては労働時間よりも、託児施設や職場環境の整備などの回答が多いことがわかる。

下記の2項目については、福島県「男女共同参画・女性の活躍促進に関する意識調査」を基にまとめた。

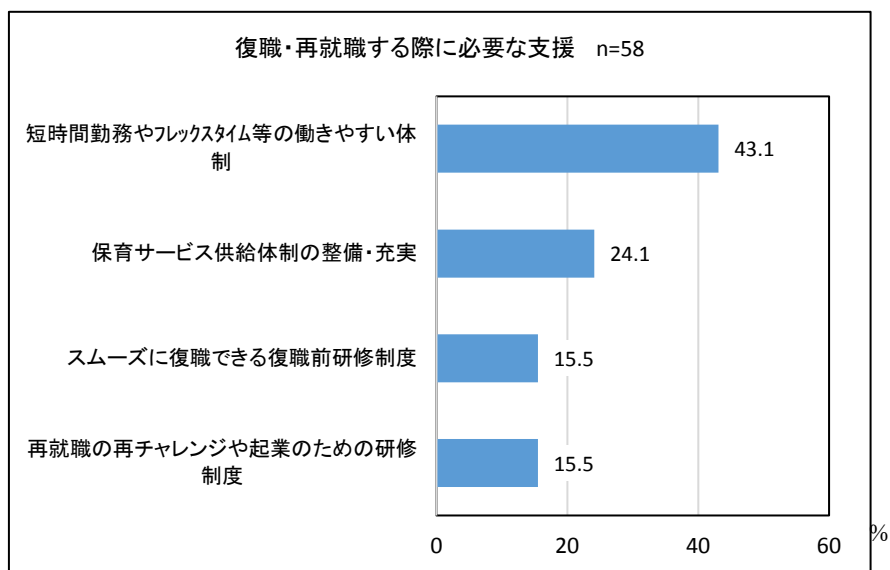
(5) 女性の活躍に必要なこと（複数回答）



「女性の活躍に必要なこと」で最も多い回答は「育児・介護等との両立について職場の支援制度が整っていること」で、次いで「職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること」であった。

働く女性にとって、家庭との両立が不可欠であることから、働きやすい職場の環境整備が重要なポイントとなる。

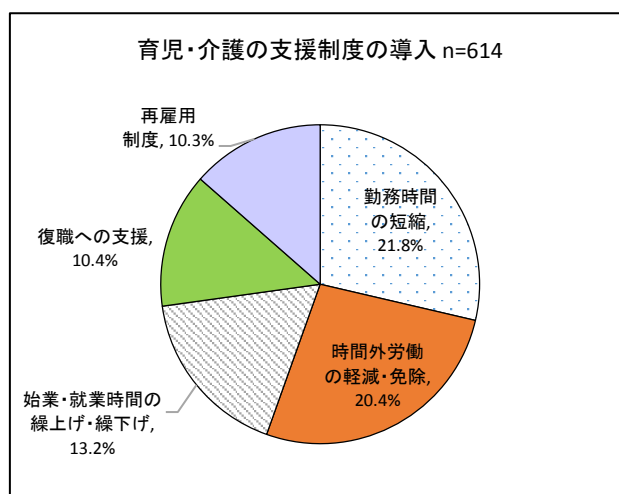
(6) 復職・再就職する際に必要な支援



「復職・再就職する際に必要な支援」の回答で、「短時間勤務やフレックスタイム等の働きやすい体制」が最も多いことから、柔軟な働きやすい環境整備が必要ということがわかる。

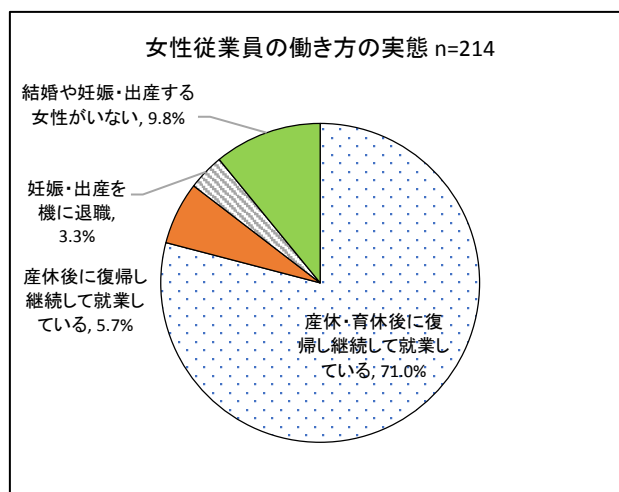
またいわき市は、平成 27 年度に「ワーク・ライフ・バランスに関する企業の意識・実態調査」を実施した。いわき市内の企業が従業員に対しての支援や、女性活躍推進について、どのような取り組みをしているのかを報告する。

(7) 育児・介護の支援制度の導入



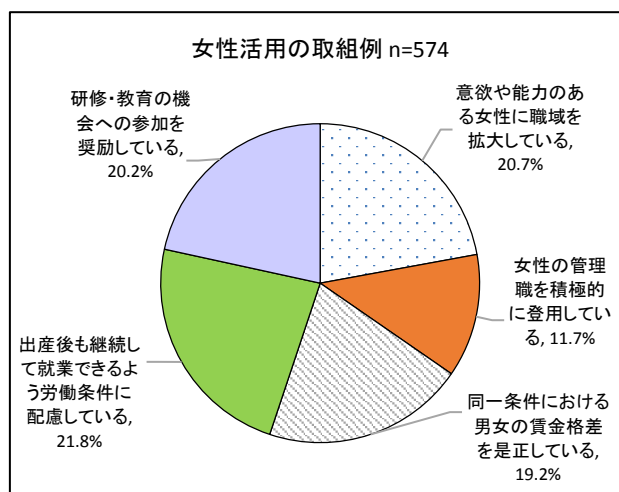
「育児や介護を行う従業員の支援制度」について、どのような取組みを行っているかの設問に対し、「勤務時間の短縮」が最も多く、次いで「時間外労働の軽減・免除」であった。

(8) 女性従業員の働き方の実態



「女性従業員の働き方の実態」について、最も多かった回答は、「子を出産して産休・育休後に復帰して就業している」であり、他の項目を大きく引き離している。

(9) 女性活用の取組例



「女性活用の取組」については、「出産後も継続して就業できるように労働条件に配慮している」であり、次いで「意欲や能力のある女性に職域を拡大している」、「研修・教育の機会への参加を奨励している」であった。

2.3 企業意識アンケート調査の実施

2.3.1 調査概要

■調査の目的

いわき市内の事業所に向けて、事業所での女性従業員に対しての意識や、実態を把握するために、アンケートを実施した。

表 5 企業意識調査の概要

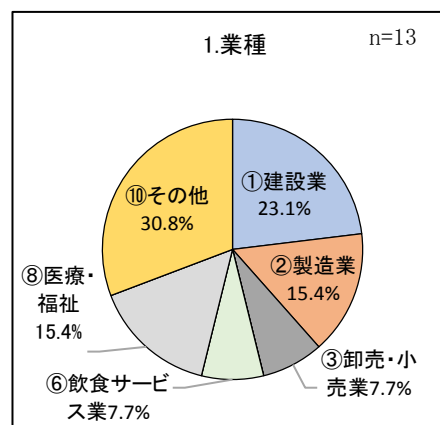
対象事業所	従業員 30 人以上のいわき市内企業 60 社（無作為抽出）
回答数（回収率）	13 社（回答率 21.7%）
調査期間	平成 29 年 10 月 27 日～11 月 8 日
調査方法	アンケート調査票は郵送 回答は FAX
調査項目	合計 11 項目 ① 事業所について ② 全従業員数について ③ 今年度の新規採用数について ④ 女性従業員の募集について ⑤ 女性従業員採用促進について取組んでいること ⑥ 女性管理職の登用について ⑦ 女性従業員離職防止の取組について ⑧ 女性従業員離職防止の課題について ⑨ 女性従業員の復職時の課題について ⑩ 女性従業員の教育制度について ⑪ 学び直しについての意見

2.3.2 調査結果

(1) 事業所の業種

最も多い事業所は「建設業」の23.1%であり、「その他」(30.8%)の業種では、「人材派遣」「情報通信」との回答があった。

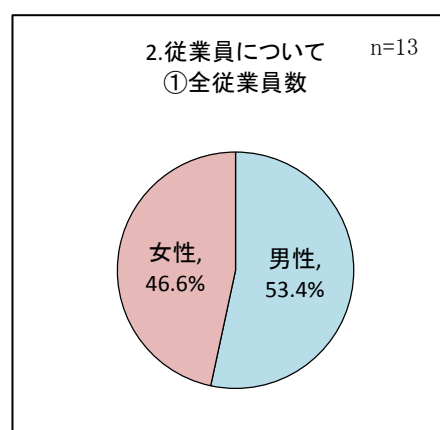
項目	事業所数	割合
①建設業	3	23.1%
②製造業	2	15.4%
③卸売・小売業	1	7.7%
④不動産・物品賃貸	0	0.0%
⑤宿泊業	0	0.0%
⑥飲食サービス業	1	7.7%
⑦教育・学習支援業	0	0.0%
⑧医療・福祉	2	15.4%
⑨金融・保険業	0	0.0%
⑩その他	4	30.8%



(2) 直近の従業員数

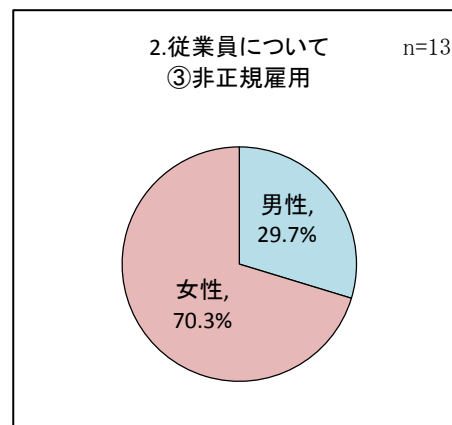
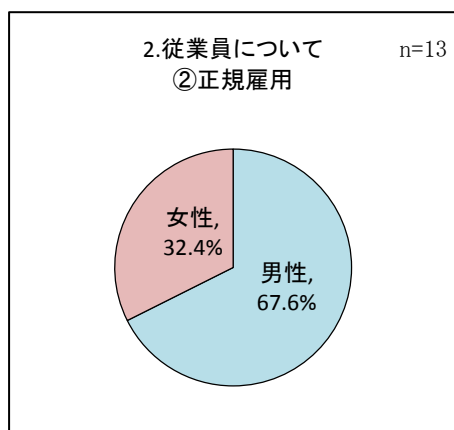
直近の従業員数の男女の割合と、男女別での正規雇用と非正規雇用の割合を比較した。全従業員の割合では、男性が6.8%多い。

項目		人数	割合
全従業員数	男性	966	53.4%
	女性	844	46.6%
正規雇用数	男性	764	67.6%
	女性	366	32.4%
非正規雇用数	男性	202	29.7%
	女性	478	70.3%



「正規雇用」の割合では、男性が 67.6%で、女性が 32.4%と、男性従業員の正規雇用が女性よりも 35.2%多い。これは女性の約倍以上となる。

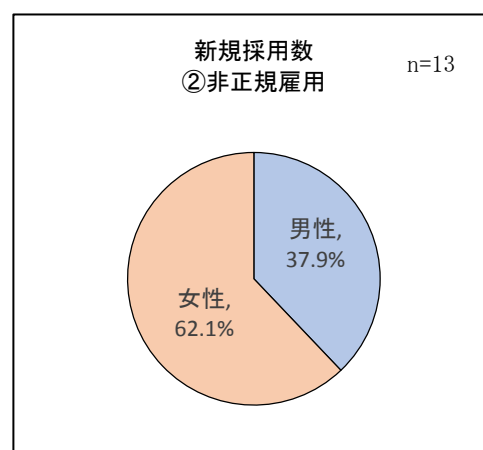
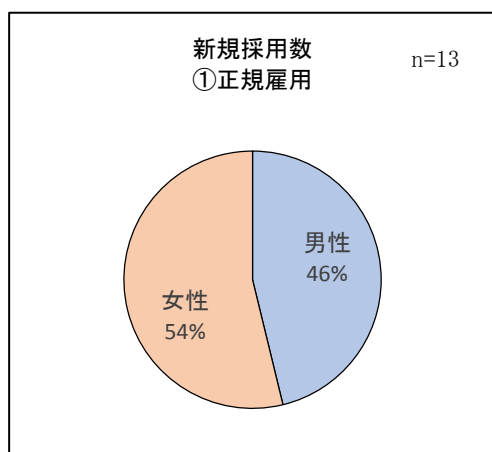
「非正規雇用」については、男性が 29.7%で、女性が 70.3%と、正規雇用の割合とは逆に女性従業員数が 40.6%多くなっていることがわかる。



(3) 今年度の新規採用数

今年度の新規採用数における「正規雇用」の男女の割合では、あまり変わりはないが、「非正規雇用」の割合をみると、男性が 37.9%、女性が 62.1%と、女性の割合が 24.2%多い。

項目		人数	割合
正規雇用数	男性	12	46.2%
	女性	14	53.8%
非正規雇用数	男性	22	37.9%
	女性	36	62.1%

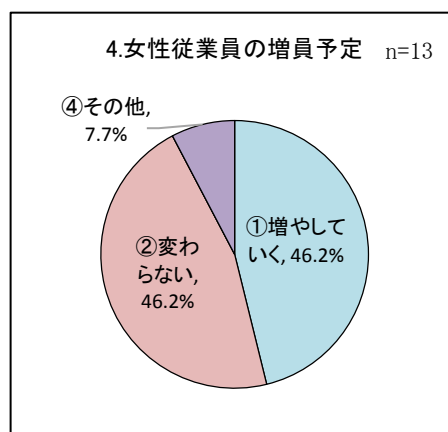


(4) 今後、女性従業員を増やす予定はあるか。

今後、女性従業員を増やす予定はあるのかの設問に対しては、「増やしていく」、「変わらない」の回答がもっとも多くともに 46.2%であり、「減らしていく」は無かった。

項目	人数	割合
①増やしていく	6	46.2%
②変わらない	6	46.2%
③減らしていく	0	0.0%
④その他	1	7.7%

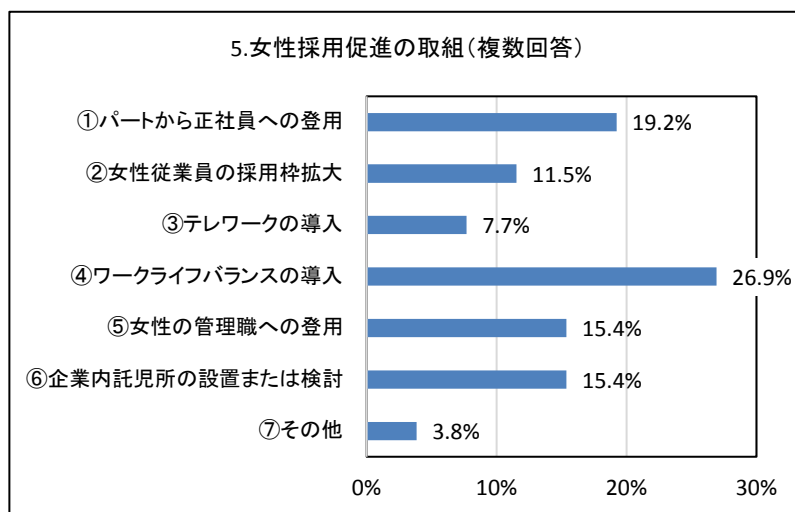
※その他：女性に限定していない



(5) 女性の採用を促進するために取り組んでいること

女性の採用を促進するために取り組んでいることでは、「ワークライフ・バランスの導入」の 26.9%が最も多く、次いで「パートから正社員への登用」19.2%であった。

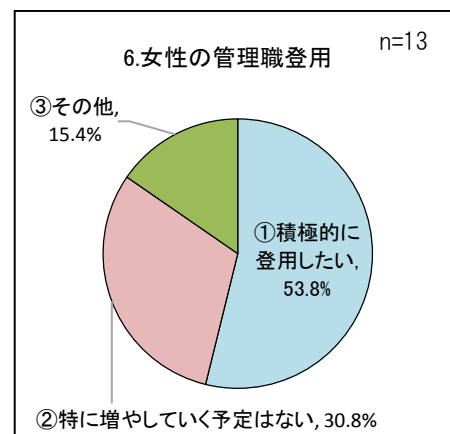
項目	人数	割合
①パートから正社員への登用	5	19.2%
②女性従業員の採用枠拡大	3	11.4%
③テレワーク（勤務時間の柔軟等）の導入	2	7.7%
④ワークライフ・バランスの導入	7	26.9%
⑤女性の管理職への登用	4	15.4%
⑥企業内託児所の設置または検討	4	15.4%
⑦その他	1	3.8%



(6) 女性の管理職の登用

「女性管理職登用」については、半数以上の 53.8%の事業所が「積極的に登用したい」と回答している。

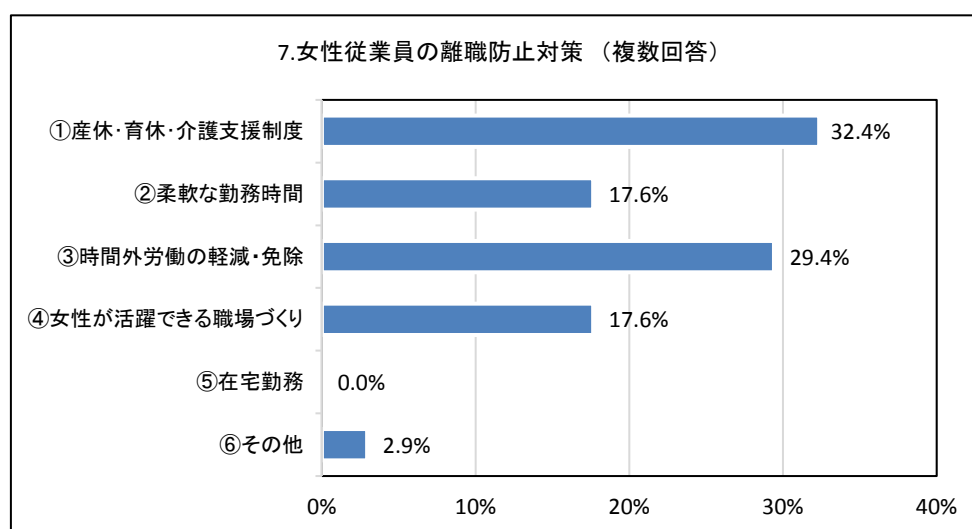
項目	人数	割合
①積極的に登用したい	7	53.8%
②特に増やしていく予定はない	4	31.0%
③その他	2	15.4%



(7) 女性従業員の離職を防ぐための取組み（複数回答）

女性従業員の離職を防ぐための取組については、最も多い回答は、「産休・育休・介護支援制度」の32.4%で、次いで、「時間外労働の軽減・免除」の29.4%であった。

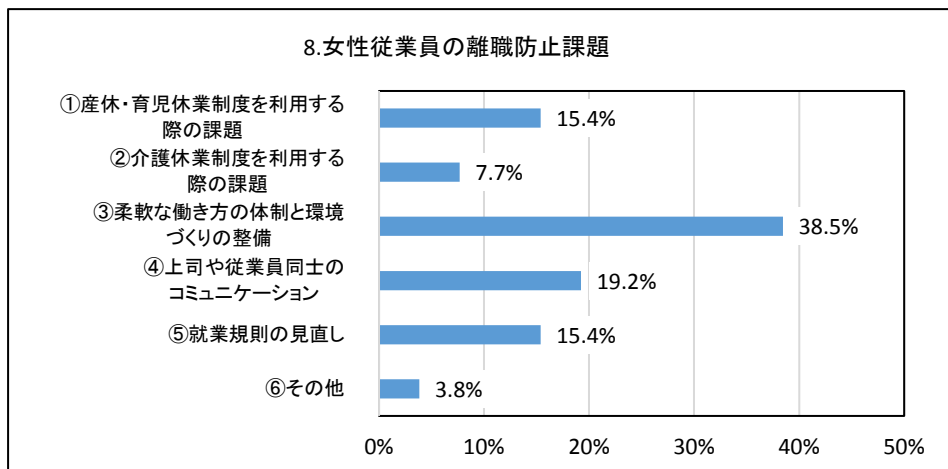
項目	人数	割合
①産休・育休・介護支援制度	11	32.4%
②柔軟な勤務時間	6	18.0%
③時間外労働の軽減・免除	10	29.4%
④女性が活躍できる職場づくり	6	17.6%
⑤在宅勤務	0	0.0%
⑥その他	1	2.9%



(8) 女性従業員の離職を防ぐための課題（複数回答）

女性従業員の離職を防ぐための課題として最も多い回答は「柔軟な働き方の体制と環境づくりの整備」の38.5%。次いで「上司や従業員同士のコミュニケーション」の19.2%である。

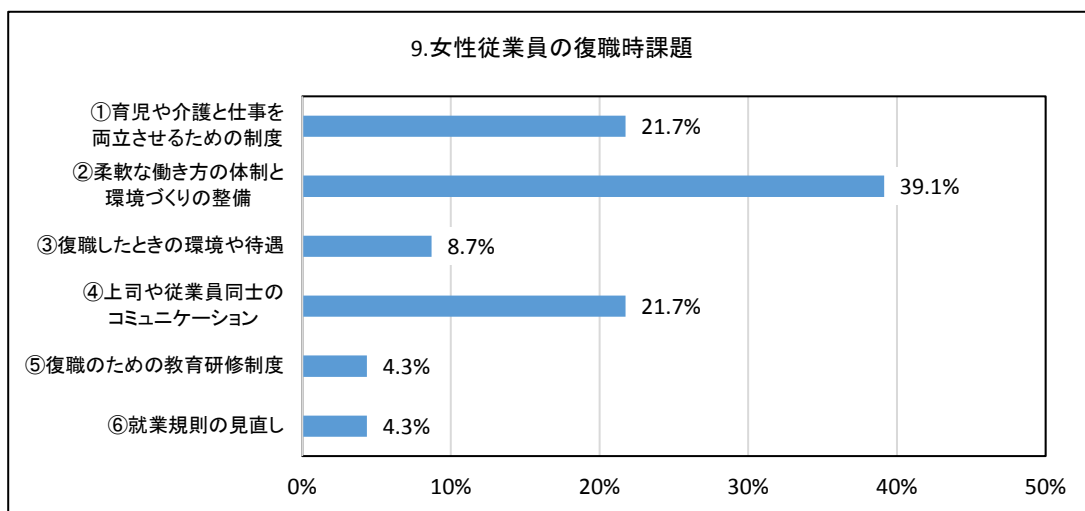
項目	人数	割合
①産休・育児休業制度を利用する際の課題	4	15.4%
②介護休業制度を利用する際の課題	2	7.7%
③柔軟な働き方の体制と環境づくりの整備	10	38.5%
④上司や従業員同士のコミュニケーション	5	19.2%
⑤就業規則の見直し	4	15.4%
⑥その他	1	3.8%



(9) 女性従業員が復職した場合の課題（複数回答）

最も多い回答は「柔軟な働き方の体制と環境づくりの整備」の39.1%で、ついで「育児や介護と仕事を両立させるための制度」と「上司や従業員同士のコミュニケーション」の21.7%であった。

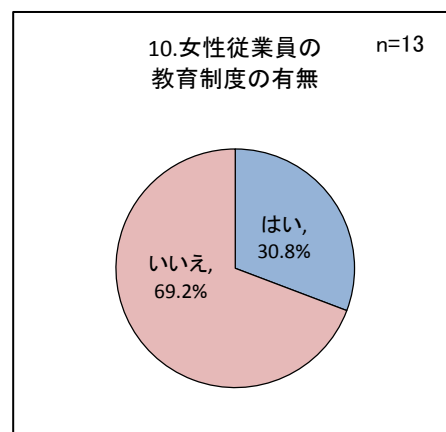
項目	人数	割合
①育児や介護と仕事を両立させるための制度	5	21.7%
②柔軟な働き方の体制と環境づくりの整備	9	39.1%
③復職したときの環境や待遇	2	8.7%
④上司や従業員同士のコミュニケーション	5	21.7%
⑤復職のための教育研修制度	1	4.3%
⑥就業規則の見直し	1	4.3%



(10) 女性従業員が新しい時代に即した技術、知識を学ぶための教育制度

教育制度については、「いいえ」の回答が 69.2%と、約 7 割の事業所が教育制度を設けていないと回答している。

項目	人数	割合
①はい	4	30.8%
②いいえ	9	69.2%



(11) 事業所全体の傾向について

「従業員数」では、男性と女性の割合に大きな差は少ないが、「正規雇用と非正規雇用」の男女の割合をみると、「正規雇用」は男性の割合が多く、「非正規雇用」はかなりの割合で女性が多い。

「今後の女性従業員の増員」については、増やしていくと回答した事業所が約半数ある。

また、「女性管理職登用」については、半数以上の事業所が「積極的に登用したい」と回答しており、女性の採用や管理職の登用について、事業所の積極性が見られるものの、女性の教育制度については、70%の企業が具体的には取り組んでいないと回答している。

このことから、今後、「女性の学び直し」の教育支援が早急に進め、女性の就業意欲と企業の人材採用のマッチングを図る必要がある。

平成 28 年に「女性活躍推進法」が完全施行され、女性の就業促進、学び直し、管理職登用などが求められているが、基本的には、働く女性と事業所の意識改革、また女性を取り巻く家庭環境（家族の理解と協力等）が必要になると考えられる。

2.4 リカレント教育カリキュラムの作成

学び直し教育に有効なカリキュラムを体系化し、地域の特性を活かしたカリキュラム構成を検討した。教育カリキュラムの作成にあたっては、研究会を開催し、自治体、大学、企業の委員からの意見を参考にした。

2.4.1 教育カリキュラムの基本的考え方

教育カリキュラムの基本的考え方は以下の通りである。

- 1) いわき市の実情、ニーズに沿った教育プログラムを開発する。
- 2) 女性ならではの柔軟な生き方、働き方を選択し、自分に合った働き方ができるカリキュラムを作成する。
 - ・フルタイムで働く（専門職、事務職）。
 - ・育児中は子育てしやすいように、時短勤務やフリーランスとして働く。
 - ・起業（ソーシャルビジネスを含む）する。
 - ・ボランティアなど、自分に合った働き方を選択できる。
- 3) 成長産業であり、労働力が不足している ICT 業界で働くためのスキルを身につける。

ICT スキルは、どんな産業で働く場合でも必須である。そのため、将来の情報社会を予測して現在及び将来の情報社会で求められる ICT スキルを習得する。
- 4) 未来社会につながる成長分野の仕事に就くことができるように、発想力を育成する。
- 5) ブランクが合った後に復職、再就職するにあたり、不安な気持ちを乗り越えるためのマインドを高めるための体系的なカリキュラムを作成する。

なお、パソコンの操作スキルやインターネットの活用については、習得済みという前提で考えていたが、企業関係者からの強い要望があり、入門編に盛り込んだ。

2.4.2 教育プログラムの構成

教育プログラムの構成は、下図の通りである。

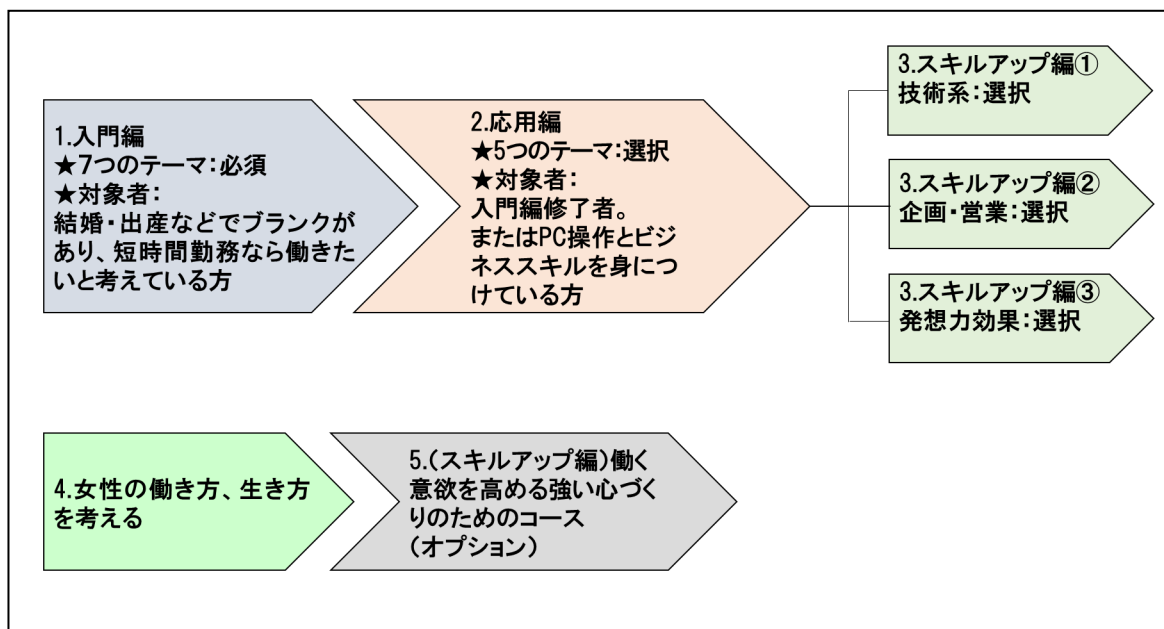


図5 教育プログラムの構成

スキルが要求される内容のコースは、入門編、応用編、スキルアップ編に分かれる。

2.4.3 教育プログラムの概要

教育プログラムの概要は、以下の通りである。

(1) 入門編

プログラム名	必須	選択	所要時間
■テーマ ・ICT リテラシー、パソコンの操作スキルを身につけ、仕事に生かすことができるようになる。 ・不安なく働くための心づくり、女性の働き方の事例を知る。			
1. 報告書の作成	○		2 時間
2. データ集計のしかた	○		2～3 時間
3. プレゼン資料の効果的な作り方	○		2～3 時間
4. 情報セキュリティ	○		2～3 時間
5. インターネット活用	○		2～3 時間
6. SNS を活用した情報発信	○		2～3 時間
7. コミュニケーション	○		2～3 時間
合計所要時間			14～18 時間

(2) 応用編 パソコンを使った操作実習コース

プログラム名	必須	選択	所要時間
■テーマ：ビジネスに必要なパソコン操作をスキルアップする。			
1. 報告書の作成実習		○	5～6 時間
2. 売上アップのためのデータ分析		○	5～6 時間
3. プレゼン資料の作成 (PowerPoint)		○	5～6 時間
4. プレゼン資料の作成 (Prezi)		○	5～6 時間
5. SNS の構築、情報発信		○	5～6 時間
合計所要時間			25～30 時間

(3) スキルアップ編①

◎ICT のスキルをベースに技術系の専門職をめざすコース

プログラム名	必須	選択	所要時間
■テーマ：ICT のスキルをベースに技術系の専門職をめざす。			
1. 情報セキュリティ		○	3～4 時間
2. インフォメーション・デザイン基礎		○	5～6 時間
3. プログラミング		○	5～6 時間
合計所要時間			13～16 時間

(4) スキルアップ編②

◎専門的な知識・スキルを生かし、企画・営業・広報などの業務の質を高めるコース

プログラム名	必須	選択	所要時間
■テーマ：専門的な知識・スキルを生かし、企画・営業・広報などの業務の質を高める。			
1. SNS を使った集客		○	5～6 時間
2. インターネット法務基礎		○	5～6 時間
3. インターネット広告		○	5～6 時間
4. ネット広告を掲載するときの注意点		○	5～6 時間
合計所要時間			20～24 時間

(5) スキルアップ編③

◎未来の情報社会を考え、発想力を高めるコース

プログラム名	必須	選択	所要時間
■テーマ： 今起こっている社会変化および将来の社会の方向性を見極め、個々人が働き方、仕事のしかたを見つめ直すきっかけをつかむ。			
1. 新しい技術で私たちの生活がどう変わる？		○	3～4 時間
2. 2020 年以降の未来予測と女性の働き方		○	3～4 時間
合計所要時間			6～8 時間

(6) 女性の生き方、働き方を考える

◎不安なく働くための心づくり、女性の働き方の事例、ロールモデルを知る

プログラム名	必須	選択	所要時間
■テーマ： 女性がいきいきと働いている事例を紹介し、ロールモデルを知る。 ブランクを乗り越え、不安なく働くための強い心づくりと目標の設定方法を知る。			
1. 女性の働き方、生き方を考える (①女性の働き方基礎編)		○	2～3 時間
2. 働くうえでの強い心づくり (自分の強みを知る)		○	2～3 時間
3. 目標設定のしかた、実行のしかたを知る		○	2～3 時間
合計所要時間			6～9 時間

2.4.4 教育プログラム:入門編

(1) 対象者

- ・結婚・出産などにより5年ほどブランクがあり、フルタイムで働くのはむずかしいが、短時間勤務をしてみたいと考えている女性（働き方としては短時間勤務や、フリーランスとして働くなどの形態がある。）
- ・基本的なパソコン操作ができる方、文書作成や表計算ソフトの基本操作ができる方

(2) 目的

- ・ICTリテラシー、パソコンの操作スキルを身につけ、仕事に生かすことができるようになる。
- ・不安なく働くための心づくりと、女性の働き方の事例を知り、強い心をつくる。

(3) 内容

- ・9つのテーマは全て「必須」とする。
- ・主に仕事に役立つ事例などを紹介するとともに、実際にテンプレートやサンプルなども操作する。

(4) 成果

さらにスキルアップを目指す方は「応用編」に進み、操作実習を学んでもらう。

このテーマを受講することでブランクを乗り越え、企業及びフリーランスで働くに当たり、スタートラインに立つことができる。

【必須】テーマ	1. 報告書の作成
講義・体験所要時間： 2 時間	①報告書事例の紹介 ②テンプレートをもとに体験 ・スタイルの編集 ・画像、グラフなどの挿入
【必須】テーマ	2. データ集計のしかた
講義・体験 所要時間：2～3 時間	①営業実績の集計 ②テンプレートをもとに体験 ・集計表を作成 ・グラフを作成
【必須】テーマ	3. プレゼン資料の効果的な作り方
講義・体験 所要時間：2～3 時間	①説得力のあるプレゼン資料とは ②テンプレートをもとに体験 ・画像、グラフ、動画などの挿入 ・アニメーション効果
【必須】テーマ	4. 情報セキュリティ
講義 所要時間：2～3 時間	①情報セキュリティとは ②情報漏洩の注意点
【必須】テーマ	5. インターネット活用
講義・体験 所要時間：2 時間	①インターネット上の情報収集 ②インターネット情報の真偽の見分け方 ③検索体験（じょうずな検索のしかた）
【必須】テーマ	6. SNS を活用した情報発信
講義・体験 所要時間：2～3 時間	①SNS の種類 ②SNS のビジネス活用 ③SNS のビジネス活用の際の注意点
【必須】テーマ	7. コミュニケーション
講義・実習 所要時間：3～4 時間	【講義】 ・社内の人間関係を円滑にするためのコミュニケーション ・外部の会社との関係を円滑にするためのコミュニケーション ・メールや電話のコミュニケーション 【実習】 ・ロールプレイ
まとめ	(各回) 振返り表に記入する
合計所要時間	14～20 時間

2.4.5 教育プログラム:応用編

○パソコンを使った操作実習コース

(1) 対象

- ・入門編の受講を修了した方
- ・パソコン操作とビジネススキルが身につけている方で、さらなるスキルアップを目指す方

(2) 目的

ビジネスに必要なパソコン操作を身につけ、即戦力として働く。

(3) 内容

- ・5つのテーマは全て「選択」とする。
- ・実際にパソコンを操作しながら、スキルを身に付けていく。

(4) 成果

ビジネスに必須のパソコンスキルを習得し、業務をスムーズにこなすことができる。

【選択】テーマ	1. 報告書の作成実習
実習 所要時間：5～6時間	①テンプレートを作成する ②議事録、作業日報、出張報告などを作成する ③グラフや写真などを挿入し、見栄えよく仕上げる
【選択】テーマ	2. 売上アップのためのデータ分析
実習 所要時間：5～6時間	①適切なグラフ（円グラフ、棒グラフ、レダーチャートなど）の選び方 ②データの並び替え、フィルタの設定 ③【実習】 ・営業成績などのサンプルデータを入力し、適切なグラフを選び、視覚に訴えるグラフを作成する。 ・数値をもとに分析結果をまとめる。 ④【実習】報告 上司に分析結果を報告する練習
【選択】テーマ	3. プレゼン資料の作成（PowerPoint）
実習 所要時間：5～6時間	【実習】 ①スライドを作成する ②写真、グラフ、動画を挿入する ③アニメーション効果をつける ④発表の練習

【選択】 テーマ	4. プレゼン資料の作成 (Prezi)
実習 所要時間：5～6 時間	1. テンプレートの選択 2. Prezi の画面構成 (編集モード) 3. テンプレートの基本構成 4. プレゼンテーションの作成 (編集) <ul style="list-style-type: none"> ①テキストの編集 ②画像の挿入 ③アイコンとシンボルの挿入 ④トピック・サブトピックの挿入 ⑤動画の挿入 ⑥アニメーションの設定 ⑦背景オプションの設定 ⑧回転+ズームインの設定 5. プレゼンモード 6. テーマに沿ってプレゼン資料を作成し発表し合う
【選択】 テーマ	5. SNS の構築、情報発信
実習 所要時間：5～6 時間時間	ひな型をもとに Facebook ページを作成する <ul style="list-style-type: none"> ・文章作成 ・画像挿入 ・広告
まとめ	(各回) 振返り表に記入する
合計所要時間	25～30 時間

2.4.6 教育プログラム:スキルアップ編①

◎ICTのスキルをベースに技術系の専門職をめざすコース

(1) 対象

- ・入門編・応用編の受講を修了した方、もしくはICTやWeb関連のスキルをベースにして、技術系の専門職をめざす人
- ・ICT、Web関連の企業に再就職、または復職したい人
- ・フリーランスとして働きたい人
- ・起業したい人

ICT、Web関連の業界は、成長分野であり、また、一般企業、農業などの一次産業でもICTを取り入れることにより、業務が改善することが期待されている。

◎次のような仕事につく可能性がある。

- ・インターネット広告営業
- ・SI 営業
- ・Webプロデューサー・Webディレクター
- ・SE、プログラマー
- ・プロジェクトマネージャー
- ・Webデザイナー、Webクリエイター

(2) 目的

- ・ICT、Web関連の専門職になるための知識・スキルを身につける。

(3) 内容

3つのテーマは全て「選択」とする。

(4) 成果

ICT、Web関連の営業職、制作者、技術者になるための基礎知識、スキルを習得することができる。

【選択】テーマ	1. 情報セキュリティ
講義 所要時間：3～4 時間	①情報セキュリティ対策 ②コンピュータウイルス対策 ③SNS を利用するときのセキュリティ対策 ・スパム投稿、アカウントの乗っ取り対策 ・投稿時の注意点(業務上知り得た秘密などを公開しないなど) ④人的セキュリティ ・人的要素を重視したセキュリティ対策 ⑤情報セキュリティに関連した法律、基準、ガイドライン
【選択】テーマ	2. インフォメーション・デザイン基礎
講義・実習 所要時間：5～6 時間	【講義】 ①だれに、何を情報発信するのか ②Web ページの構成を考える ③見やすくレイアウトするコツ 【実習】 ④情報をわかりやすくデザインする ・タイトルのつけ方(キャッチコピーをつけるコツ) ・見出しのつけ方 ・情報をわかりやすく整理する。 ※画像、動画、テキストデータなどの素材をあらかじめ用意しておく
【選択】テーマ	3. プログラミング
講義・実習 所要時間：5～6 時間	【講義】 ①プログラミングとは何か、プログラミングで何ができるのか ②プログラミング言語を知る 何を作りたいのかを考え、プログラミング言語を選ぶ。 ③アプリ開発の方法 【実習】 ④あらかじめ用意しておいたソースコードを修正し、オブジェクトを動かしたり、文字を修正したりする
まとめ	(各回) 振り返り表に記入する
合計所要時間	13 時間～16 時間

※新しい技術やさらに専門的なスキル取得を希望する人は、別途講座を紹介する。

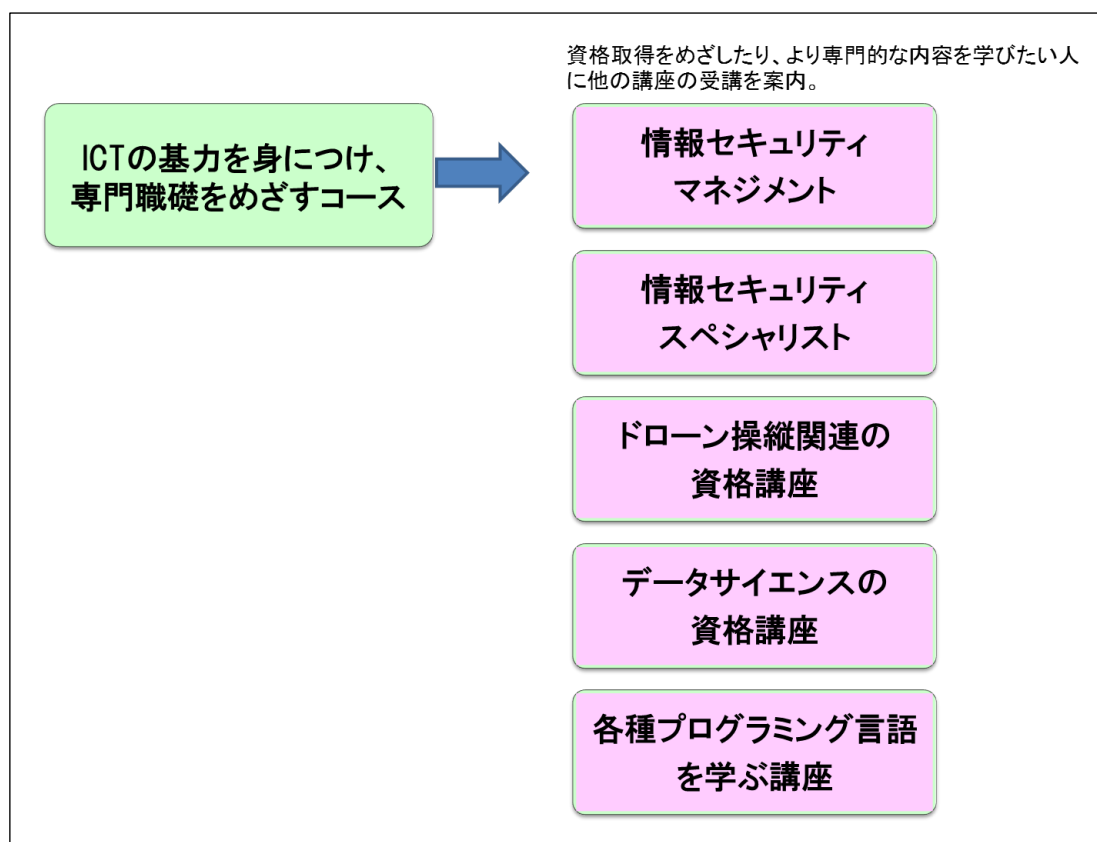


図 6 講座の種類

2.4.8 教育プログラム:スキルアップ編②

◎専門的な知識・スキルを生かし、企画・営業・広報などの業務の質を高めるコース

(1) 対象

- ・入門編・応用編の受講を修了した方
- ・専門的な知識やスキルを生かし、企画・営業・広報の業務の質を高めたい方

(2) 目的

このコースでは、企画、営業、広報などの業務の質を高めることにより、経営改善につなげるための専門的事務なスキルを磨くことを目的とする。

(3) 内容

4つのテーマは全て「選択」とする。

(4) 成果

単に事務職として補助業務を担当するのではなく、企画、営業、広報などの業務の質を高めることにより、専門職として働くことができるようになる。

【選択】テーマ	1. SNS を使った集客
講義・実習 所要時間：5～6 時間	【講義】 ①SNS の運用のポイント ②組織で管理する SNS アカウント ③SNS マネジメント ④支持される投稿の編集ノウハウ 【実習】 素材をもとに、ユーザーとのインタラクティブなやりとりができる SNS を作成する、またはサンプルの SNS を改良する
【選択】テーマ	2. インターネット法務基礎
講義 所要時間：5～6 時間	①著作権 ・使用許諾 ・肖像権 ②インターネット上の表現行為をめぐる法律問題 ③オンラインプライバシーと個人情報保護 ④プロバイダなどネットワーク管理者の責任をめぐる問題 ⑤インターネット広告 ⑥電子商取引 ⑦インターネットと企業法 ⑧AI に関する法律問題
【選択】テーマ	3. インターネット広告
講義・実習 所要時間：5～6 時間	①クリック型、成果報酬型、アフィリエイト、バイラル広告、行動ターゲティング型広告など、ネット広告の形態を講義する ②それぞれのメリット、デメリットを洗い出す ③ 【実習】 課題に沿って、広告を作成してみる ④グループで話し合い、発表する
【選択】テーマ	4. ネット広告を掲載するときの注意点
講義・実習 所要時間：5～6 時間	①規制対象となる表示 ②ネット広告手法と法律上の問題点 ③禁じられる不当表示と違反要件（品質・規格の優良性関連） ④禁じられる不当表示と違反要件（販売価格・条件の有利性関連） ⑤景品表示法理解度チェック 【実習】 事例解説を中心に、クイズ、演習、発表を交えて進める
まとめ	（各回）振返り表に記入する
合計所要時間	20 時間～24 時間

2.4.9 教育プログラム:スキルアップ編③

◎未来の情報社会を考え、発想力を高めるコース

(1) 対象

- ・ 入門編・応用編の受講を修了した方
- ・ 未来の情報社会の方向性を見極め、働き方や仕事のしかたを見つめ直したい方

(2) 目的

このコースは、今起きている社会変化および将来の社会の方向性を見極め、個人が働き方、仕事のしかたを見つめ直すきっかけをつかむことを目的としている。

現在、日本社会は少子高齢化が進行し、労働力不足が深刻になってきている。今、日本で働いている人々に求められているのは、価値観の大変革、生き方の再定義である。

「人年100時代」を迎えようとしている中で、キャリアや人生設計、生き方が問い直されている。そうした時代背景の中で、生き方、働き方を自分自身で再定義する。

(3) 内容

3つのテーマは全て「選択」とする。

(4) 成果

将来の情報社会の方向性を見極め、自分自身の働き方、生き方を決めることができるようになる。

【選択】テーマ	1. 新しい技術で私たちの生活がどう変わる？
講義・実習 所要時間：3～4時間	【講義】 ①AI、IoTなどの新しい技術により、私たちの生活がどのように変わるか ②新しい技術により、社会や経済がどのように変わるか ③どのように発想したら生き抜くことができるか 【実習】 将来の情報社会を想像して、こんなサービスや技術があったらどんな生活をしているか、どんな仕事をしているかを考え、絵や文章で綴る 【発表】 グループで話し合い、発表する
【選択】テーマ	2. 2020年以降の未来予測と女性の働き方
講義・実習 所要時間：3～4時間	【講義】 ①社会的に大変革が起こっているが、変革の原点はコミュニケーションにあることを認識する ②ピラミッド型社会から水平分散ネットワーク型社会へ 【実習】 組織、家庭の中で良好なコミュニケーションを図るためのワークを行う 【発表】 グループで話し合い、発表する
まとめ	(各回) 振り返り表に記入する
合計所要時間	6～8時間

2.4.10 女性の働き方、生き方を考えるコース

◎不安なく働くための心づくり、女性の働き方の事例を知る。

(1) 対象

- ・結婚・出産などでブランクがあり、再就職、復職したいと考えている方
- ・再就職、復職したいけれども、少し不安を感じている方

(2) 目的

このコースは、女性がいきいきと働いている事例を紹介しながら、さまざまな働き方の中から自分に合った働き方を選ぶことができることを目的にしている。

また、再就職や復職に不安があっても、自分の強みを生かしながら働くことの意義を知ることが目的である。

(3) 内容

3つのテーマは全て「必須」とする。

(4) 成果

- ・再就職や復職にあたり、不安を払拭して働くことができるようになる。
- ・働くことの意義を認識し、働く目標を定めることができるようになる。

【必須】テーマ	1. 女性の働き方、生き方を考える（①女性の働き方基礎編）
講義・ワーク 所要時間：2～3時間	【講義】 少子高齢化が進行する中、女性が働くことが不可欠となる社会的背景、女性の働きがい、生きがい創出について講義。女性がいきいきと働いている事例を紹介する <ul style="list-style-type: none"> ・専門を生かす ・趣味や好きなことを仕事にする ・社会貢献する ・ボランティア活動など 【ワーク】 働くことについて、どんな働き方をしたいかについて、グループ内で意見交換する。グループごとにどんな意見が出されたかを共有する
【必須】テーマ	2. 働くうえでの強い心づくり（自分の強みを知る）
講義・ワーク 所要時間：2～3時間	【講義】 強み診断ツールを使って、自分の強みを知る強みを生かすことの意味・意義を説明する 【ワーク】 ・自分の強みを生かすためにどのように行動したいかをワークシートに書く。グループで発表し合う
【必須】テーマ	3. 目標設定のしかた、実行のしかたを知る
講義・ワーク 所要時間：2～3時間	【講義】 目標設定のしかたを説明する また、快樂的な幸福感と目標設定し、達成したときの幸福感のちがいを説明する 【ワーク】 自分の目標を設定し、どのように自分の能力を発揮したいかを文章、絵、グラフなどにまとめ、発表し合い、共有する。また、チームとしての目標を設定し、どのように役割を分担しながら、チームとして成長するかを考え、共有する。
まとめ	(各回) 振り返り表に記入する
合計所要時間	6～9時間

2.4.11 (オプション)働く意欲を高めるための強い心づくりのコース

◎不安なく働くための心づくりや自分自身を知り、目標を設定し、働く意欲を高める

(1) 対象

- ・再就職、復職したいけれども、少し不安を感じている方
- ・働く意欲を高め、仕事に取り組みたい方

(2) 目的

このコースでは、働く上で困ったことが起きたときや逆境に陥ったときに対処する力、自分自身の強みを知り、目標を設定し、やり抜く力を養うことを目的としている。目標に向けて努力することにより、達成感、充実感を得て、それが幸せにつなげ、働くことを通じて社会に貢献する力を身につける。

(3) 内容

14のテーマは全て「選択」とする。各レッスンの所要時間は、2～3時間とする。

(4) 成果目標

全体の学習目標	①ウェルビーイングとは何かを理解する ②自分の強みを知り、強みを活かして行動する ③目標の設定方法を理解する ④逆境に陥ったときの乗り越える方法を理解する
全体の行動目標	・復職前の不安な気持ちを乗り越えて、やりがいを持ち、自分の行動に意義を見出すことができるようになる ・自分の強みを知り、強みを活かして行動できるようになる ・目標を設定し、目標を達成できるように行動できるようになる ・熱中して打ち込めるものを見つけ、行動できるようになる ・逆境に陥っても、逆境を乗り越えることができるようになる

このコースのカリキュラムは、ポジティブ心理学の考え方に基づいて企画したものである。ポジティブ心理学とは、従来の臨床心理学が心の病に対処するものだったのに対し、普通の健康な人も含め「どうしたら幸せになれるのか」を追究する学問であり、従来の臨床心理学を補完している。アメリカの心理学会会長だったマーティン・セリグマン博士（ペンシルバニア大学教授）が、1998年に提唱し、現在欧米、オーストラリアをはじめ、世界各国で実証研究（Evidence-based Research）が進んでいる。

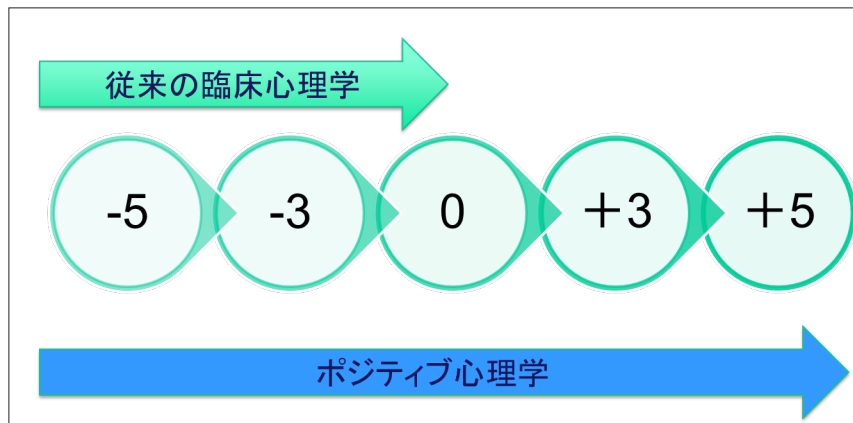


図6 従来の臨床心理学とポジティブ心理学

「(オプション)働く意欲を高めるための強い心づくりのコース」のカリキュラムは、以下の通りである。

(1) ウェルビーイングとは何かを理解する

レッスン1		テーマ：ウェルビーイングとは何か	
学習目標	ウェルビーイングとは何かを理解する		
行動目標	心身の健康に留意して行動することができる		
	主な活動	学習内容・活動内容	注意ポイント
導入	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェルビーイングとは何か ・WHOの序文における定義、ポジティブヘルスの考え方 ・幸福における2つのとらえ方 ・幸福度クイズ、人生満足度 ・幸福度の国際比較について講義 	
展開	ワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの人生を振り返って、幸福度をグラフにする ・人生満足度を測る ・幸福度、人生満足度を上げるための行動を考える 	
まとめ		振り返り表に記入する	

レッスン2		テーマ：ウェルビーイングの5つの要素	
学習目標	ウェルビーイングの5つの要素を理解する		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・熱中できることを見つけ、行動することができる ・目標を設定し、行動することができる ・強い意志をもって、やり抜くことができる 		
	主な活動	学習内容・活動内容	注意ポイント
導入	講義	ウェルビーイングの5つの要素（PERMA） ①Positive Emotion（ポジティブ感情） ②Engagement（やりがい） ③Relationships（良好な人間関係） ④Meaning（意味合い・意義） ⑤Accomplishment（達成・成功） について学ぶ	
展開	グループワーク	①ポジティブ感情を抱いた経験を話し合う ②熱中し、無我夢中で活動した経験を話し合う ③深い絆で結ばれている人間関係、愛し、愛されている関係を話し合う ④意義・使命感を感じていることを話し合う ⑤自分の目標をワークシートに記入し、話し合う。やり抜こうと思っていることを話し合う	
まとめ		振り返り表に記入する	

レッスン 3		テーマ：仕事における幸福	
学習目標	仕事における幸福感を高める方法を理解する		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ やりがい、働きがいを見つけ、行動することができる ・ 職場での良好な人間関係を構築し、行動することができる 		
	主な活動	学習内容・活動内容	注意ポイント
導入	講義	下記について、事例や統計をもとに説明する <ul style="list-style-type: none"> ・ 幸福度が高い従業員は仕事の貢献度が高い ・ 従業員のやりがいや貢献意欲が高いと、組織にさまざまなメリットがある ・ 過剰な労働時間と幸福度の関係 ・ 雇用と幸福度の関係 ・ 職場での人間関係の構築（共感—Compassionを大切にする） 	
展開	グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の仕事観を考え、発表し合う ・ 質の高い人間関係を形成するための方法に基づきワークを行う 	
まとめ		振り返り表に記入する	

(2) 自分の強みを知り、強みを活かして行動しよう

レッスン 4		テーマ：自分の強みを知る	
学習目標	自分の強みを理解する		
行動目標	自分の強みを知り、行動することができるようになる		
	主な活動	学習内容・活動内容	注意ポイント
導入	講義	強み診断ツール* ¹ を使って、自分の強みを知る 強みを生かすことの意味・意義を説明する	事前に強み診断ツールを使って、自分の強みを把握しておく
展開	グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の強みを生かすためにどのように行動したいかをワークシートに書く ・グループで発表し合う ・「強みカルタ」をしながら、強みを生かすことの重要性を学ぶ 	
まとめ		振り返り表に記入する	

(注 1) 強み診断ツール

*VIA-IS :

ポジティブ心理学の第一人者、ペンシルバニア大学のマーチン・セリグマン博士とクリストファー・ピーターセン教授によって定義された 24 種類の性格の強み・徳性の強みを診断する。

創造性、好奇心、向学心、柔軟性、誠実さ、忍耐力、熱意、愛情、リーダーシップ、チームワーク、希望など。

*Strength Finder :

アメリカのギャラップ社が開発した診断ツール。

レッスン 5		テーマ：自分の強みを生かして行動する	
学習目標	自分の強みを知り、どのように働いたらいいかを理解する		
行動目標	自分の強みを知り、どのように働いたらいいかを考えて行動することができる		
	主な活動	学習内容・活動内容	注意ポイント
導入	グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> 自分の強みを生かして、どのようにキャリアシフトできるかを考え、グループで発表し合う どんな仕事をするか、地域貢献するかなどメンバーからのフィードバックを聞く 	
展開	グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> 新しい環境で、自分の強みを生かしてしたいことをまとめ、発表し合い、共有する グループのメンバーのいいところ、強みを発見する。他の人のいいところを見つけ、励まし、自信をつけさせる 	
まとめ		振り返り表に記入する	

レッスン 6		テーマ：チームの強みを生かして行動する	
学習目標	・チームの強みを生かす方法を理解する		
行動目標	・チームの強みを生かして行動することができる		
	主な活動	学習内容・活動内容	注意ポイント
導入	グループワーク	グループの個々人の強みを結集して、グループとしての強みを考える	
展開	グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> チームビルディングし、グループとして実行するアクションプランを考え、発表し合う テーマ例：地域の強みを生かし、ブランディングする方法などをグループで考える 	
まとめ		振り返り表に記入する	

レッスン7		テーマ：自分の強みを知る	
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> 心から打ち込めることは何かを理解する 充実を感じたときを思い起こし、成長するために、また達成感を感じるためには、どのように行動したらいいかを理解する 		
行動目標	充実を感じたときを思い起こし、成長するため行動することができる		
	主な活動	学習内容・活動内容	注意ポイント
導入	グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> 充実を感じるフロー体験を振り返り、意見交換する 快楽的な幸福感と目標設定し、達成したときの幸福感のちがいを説明する 	
展開	グループワーク	無我夢中になったこと、充足した気持ちになったときの気持ち、大変だったけれどもうれしかったことなどについて、ワークシートに記入したうえで、話し合う	
まとめ		振り返り表に記入する	

(3) 目標の設定方法を理解する

レッスン8		テーマ：目標設定のしかた、実行のしかたを知る	
学習目標	目標設定のしかた、実行のしかたを理解する		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> 目標を設定して行動することができる 目標に向けて挑戦することができる 		
	主な活動	学習内容・活動内容	注意ポイント
導入	講義	<ul style="list-style-type: none"> 目標設定のしかたを説明する 快楽的な幸福感と目標設定し、達成したときの幸福感のちがいを説明する。 	
展開	グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> 自分の目標を設定し、どのように自分の能力を発揮したいかを文章、絵、グラフなどにまとめ、発表し合い、共有する チームとしての目標を設定し、どのように役割を分担しながら、チームとして成長するかを考え、共有する 	
まとめ		振り返り表に記入する	

レッスン 9		テーマ：目標設定・挑戦のロールモデル	
学習目標	目標を設定し、挑戦している事例を理解する		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ロールモデルを参考にして、目標を設定し、行動することができる ・ロールモデルを参考にして、目標に向けて挑戦することができる 		
	主な活動	学習内容・活動内容	注意ポイント
導入	ワーク	目標を設定し、チャレンジしている人のロールモデルを選ぶ。選んだ理由、共感する理由、ロールモデルを参考にして、どのように目標を設定し、チャレンジするかをワークシートに記入する	
展開	グループワーク	グループで発表し合い、共有する	
まとめ		振り返り表に記入する	

レッスン 10		テーマ：目標設定・挑戦のロールプレイ	
学習目標	・目標を設定し、挑戦ことの重要性を理解する		
行動目標	・目標達成に向けて挑戦することができる		
	主な活動	学習内容・活動内容	注意ポイント
導入	グループワーク	熱中して打ち込めるものを見つけ、目標を設定して、挑戦し、達成感を感じたというストーリーのシナリオを描く	
展開	グループワーク	寸劇を演じ、評価し合う	
まとめ		振り返り表に記入する	

(4.) 逆境に陥ったときの乗り越える方法を理解する

レッスン 11		テーマ：逆境を乗り越えた人をロールモデルにして、生き方を学ぶ	
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・逆境に陥ったときの乗り越える方法を理解する ・逆境に陥ったとき、人とのつながりが重要であることを理解する ・周りの人、協力してくれる人に感謝することの重要性を理解する 		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・逆境を乗り越えることができる 		
	主な活動	学習内容・活動内容	注意ポイント
導入	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・逆境を乗り越えた人(例:パラリンピアン、オリンピック、病気から回復した人など)の事例を紹介する ・逆境を乗り越えた人をメンタルモデルとして、自分にとっての逆境を乗り越える力を考える 	
展開	グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にとっての逆境を乗り越えた人のロールモデルを選ぶ ・選んだ理由、共感する理由、自分だったらどのように逆境を乗り越えるかを発表し合う 	
まとめ		振り返り表に記入する	

レッスン 12		テーマ：PTG（心的外傷後成長）	
学習目標	心的外傷になるような逆境に陥っても、成長し、ポジティブな変化が表れることを理解する		
行動目標	逆境を乗り越えることができる		
	主な活動	学習内容・活動内容	注意ポイント
導入	講義	<ul style="list-style-type: none"> ・PTG（心的外傷後成長）について説明する ・PTG の事例を紹介する 	
展開	グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分にとっての逆境経験」つらい経験をして自分で学んだこと、周りの人とのつながりなどをワークシートに記入し、意見交換する ・つらい経験の後、学んだこと、成長したことについて意見交換し合う 	
まとめ		振り返り表に記入する	

レッスン 13		テーマ：逆境を乗り越える	
学習目標	日々の訓練によってレジリエンスを高めることができることを知る		
行動目標	逆境を乗り越えることができる		
	主な活動	学習内容・活動内容	注意ポイント
導入	実習	逆境から立ち直る方法（レジリエンス※の4つの筋肉を鍛える） ①「私は〇〇です」 資質的な強み、性格的な強みを知り、自尊感情、自己肯定感を高める ②「私は〇〇が好きです」 好きなことをあげてみる ③「私には〇〇がいます」 ・信頼できる人、助けてくれる人がいる ・ソーシャルサポート、社会的なつながりがあるかどうかを確認する ④「私は〇〇ができます」 ・できることをリストアップして、問題解決力、自己効力感を高める ・レジリエンスの4つの筋肉を鍛えるため、ワークシートに記入する	
展開	グループワーク	グループで話し合い、発表し合う	
まとめ		振り返り表に記入する	

※レジリエンスとは、困難なことや逆境に直面しても、しなやかに立ち直る力。「回復力」「復元力」「耐久力」と訳される。近年、心の病の予防や回復のための重要な要素として注目されている。

レッスン 14		テーマ：逆境をしなやかに乗り越えるためのコツ（ケーススタディから学ぶ）	
学習目標	逆境への対応策を理解する		
行動目標	どんな逆境に陥っても対応し、逆境を乗り越えることができる		
	主な活動	学習内容・活動内容	注意ポイント
導入	事例紹介	<p>女性が復職、再就職するときにかかるさまざまなケースを考える</p> <p>たとえば</p> <ul style="list-style-type: none"> ①夫や姑が復職、再就職に反対している ②子どもが家にいてほしいという ③姑、舅が病気で倒れた <p>など、ケースごとに対応策を考える</p>	
展開	ロールプレイ	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで逆境やつらいことを乗り越えるストーリーを考え、寸劇用のシナリオを作成する ・グループごとに寸劇を演じる 	
まとめ		振り返り表に記入する	

2.5 いわき市内保育施設調査

いわき市内の保育所の実態を把握するために調査を実施した。

2.5.1 いわき市の保育環境整備について

(1) 保育所

- ・公立の保育所 33 施設
- ・私立の保育所 25 施設
- ・私立認定こども園（幼保連携型、幼稚園と保育所を一体的に運営）4 施設
- ・地域型保育事業所（0～2 歳児のみを対象）7 施設
- ・他に、へき地保育所、一時預かり、休日保育がある。

保育所の数は充実している。

(2) 幼稚園

3 歳～小学校就学前の幼児を教育する機関。公立と私立の幼稚園がいわき市の各地にあり、設置面で全国的に評価されている。市内 51 か所設置（うち 2 ヶ所休園中）

(3) 子育て支援事業・施設

①チャレンジホーム：

適応指導教室。不登校児童向け。市内 4 か所設置

②放課後児童クラブ：

放課後児童健全育成事業。昼間保護者のいない家庭の小学校に就学している児童向け。市内 60 か所設置

③子どもの居場所：

子どもたちが気軽に集い、自由に過ごせる場所。市内 1 か所設置

④病児・病後児保育：

医療機関に併設された施設。市内 3 か所設置

⑤児童館・子ども元気センター：

児童に健全な遊びを与え、健康・情操・学習を豊かにする施設。市内 3 ヶ所設置

⑥地域子育て支援拠点施設

子育て中の人交流する場。育児の悩みや不安の相談に応じている。

子育ての相談は 1 日あたり 5～6 件。市内 5 か所設置

⑦ファミリー・サポート・センター

育児をサポートしたい人、サポートを求める人とのマッチング。

⑧子育てサロン

活動の参加者は、3 歳くらいまでの未就学児とその親。子育てを楽しみながら助

けあう活動をしている。市内 12 地区で実施。

⑨その他

- ・屋内遊び場
- ・赤ちゃんの駅
- ・病児、緊急対応強化事業
- ・いわき市子育てサポートセンター
- ・子育て教室
- ・子育てサークル、子育て支援ボランティアグループ

2.5.2 いわき市の保育所について

(1)いわき市認可保育所

- ・認可保育所（私立）： 25 か所
- ・認可保育所（公立）： 33 か所
- ・私立認定こども園： 5 か所
- ・地域型保育事業： 7 か所

事業所内保育、小規模保育、家庭内保育（保育者の自宅で保育）、居宅訪問型保育（障害等があり、集団保育ができない場合）などがある。

(2)いわき市における待機児童

- ・保育所定員数： 6,080 人
- ・利用児童数： 5,515 人
- ・待機児童数： 25 人

○内訳：

- ・障害児統合保育等に係る保育士不足によるもの： 10 人
- ・保育所の定員超過によるもの： 15 人

2.5.3 いわき市における介護、保育の現状

いわき市は、65 歳以上の方が 25%を超える「超高齢社会」となっているが、介護職員の数は、かなり不足しており深刻化している。

しかし、一方で介護施設はいわき市内にたくさんあるが、日本人のスタッフが足りないため、インドネシア、中国、ベトナムから介護実習生が来て研修を受けている。

また、福島県内には、潜在保育士（保育の資格をもっているが、ちがう仕事をしたい人）が多い。そういった面でも、介護士の再教育や待遇面の改善が必要である。

東日本国際大学では、保育士の資格をとっても、100 人中 20 人は一般企業に就職しており（平成 28 年度卒業生）、また、その 20 人はいわき市以外の場所で働いているのが現状である。

2.5.4 事例紹介：ゆしまや保育園

いわき市内の保育施設の事例として、ゆしまや保育園を視察した。ゆしまや保育園の概要は下表の通りである。

表 6 ゆしまや保育園の概要

名称	公益財団法人ときわ会事業所内保育所 ゆしまや保育園
所在地	いわき市常磐松が台 102
園児数	90 名（うち地域枠 25 名）
対象年齢	2 ヶ月～2 歳児まで ※0 歳から 2 歳児まで各 30 人⇒卒園後、かなや幼稚園（ときわ会グループ）に進級する子どもが多い
保育料金	12,000 円（福利厚生） 2 人目は半額、3 人目は無料 ※保育料が他の保育施設に預けるよりも低料金（福利厚生の一環となっているため）
職員数	41 名（補助含む）
母親の年代層	8～9 割が 20～30 代である

■ゆしまや保育園の利用のメリット

- ・保育士の働く環境が良くなっている（職場環境、キャリアアップ、処遇改善※など）他の保育所よりも保育士の数が安定している。
- ・子どもの預かる時間帯が長い（7：00～19：30）。
- ・子どもが体調不良になっても対応できる（正看護師が配置されている）。
- ・母親（父親）が急な残業になっても、無料で延長保育ができる。

※職場環境改善、待遇改善、IT 化による保育士記録業務の軽減、保育補助者の積極的採用等

■ ゆしまや保育園の整備状況

ゆしまや保育園は、温泉施設を改築し平成 27 年 7 月に開園した施設。

そのため、足湯も楽しむことができる。

フローリングの広場は、子どもたちが安全に楽しく過ごせるように工夫がされていた。

また、職員の休憩スペースや研修室も充実しており、職員にも優しい環境であった。



子供の遊び場①



子どもの遊び場②



清潔なトイレ



2 歳児の部屋



保育園児のための足湯



職員のための休憩室

2.6 セミナーの実施

いわき市の女性を対象に、下表の通りセミナーを実施した。

2.6.1 セミナーの概要

セミナーの概要は、下表の通りである。

表9 セミナーの概要

セミナー名	「女性のこれからの働き方、変える変わる」 ～今こそ身につけておきたい知識とスキル！～
目的	女性のこれからの働き方を見直し、変えるきっかけをつかむ
受講対象者	・新しい領域へ挑戦するバイタリティあふれる方 ・自分のキャリアをより高めていきたい方 ・再就職、独立・起業を考えている方
日時	平成29年12月16日(土) 14:00～15:00
会場	いわき産業創造館 IT研修室 6階
講師	内野 良昭氏 ICTコミュニケーションズ株式会社 代表取締役
内容	1) IT時代、仕事での活用マインドを高めよう！ ①これから面白くなる仕事、無くなる仕事 ②「現代人の三種の神器」を味方に IT&ICTの進化が仕事に及ぼす影響として「三種の神器」に着目。仕事に生かす利用技術を深掘します。 2) 自分に合った働き方を見つけよう！ ①子育てしながら、育児・介護と両立させて働くために ②フルタイム可能、キャリアシフト！！
参加者数	11名(男性5名、女性6名) 年代：30歳代：5名 40歳代：2名 50歳代：2名 60歳代：2名

受講料
無料

女性の これからの働き方、変える変わる

「今こそ身につけておきたい知識とスキル！」

2017. **12.16** 土

- 時間：14：00～15：00
(受付開始 13：30)
- 会場：いわき産業創造館
(LATOV6 階) IT 研修室
*いわき駅直結
- 主催：(株)いわきテレワークセンター
- 受講対象
 - ・新しい領域へ挑戦するバイタリティあふれる方
 - ・自分のキャリアをより高めていきたい人
 - ・再就職、独立起業を考えている方

*当日お子様を預かる保育施設はございません。ご了承ください。

プログラム

① IT 時代、仕事での活用マインドを高めよう！

☆これから面白くなる仕事、無くなる仕事

☆「現代人の三種の神器」を味方に

IT&ICTの進化が仕事に及ぼす影響として「三種の神器」に着目。仕事に生かす利用技術を深堀します。

② 自分に合った働き方を見つけよう！

☆子育てをしながら、育児・介護と両立をさせて働くために

☆フルタイム可能、キャリアシフト！！

* 講師 内野良昭さん *

ICT コミュニケーションズ株式会社
代表取締役 CEO



Microsoft 社に 16 年半勤務。
仙台営業所長経験から、東北地域には愛着があります。
2011 年独立し、ICT コミュニケーションズ株式会社を設立。「多くの女性たちに輝ける力を!!」という思いから、全国各地で様々な研修会や講演活動を行っています。
現在、一般社団法人 ICT 活用支援協会 代表理事/一般社団法人ウェブ推進協会 理事を兼務

参加のお申込みは 電子メールまたは電話で、住所・氏名・電話番号をご連絡ください

申込締切り 平成 29 年 12 月 14 日 (木) 17：00

お申込み・お問合せ先 株式会社いわきテレワークセンター 〒970-8026 いわき市平字小太郎町 3-9

TEL:0246-35-1635 FAX:0246-35-1645 E-Mail:hataraku@iwaki-twc.co.jp

※ご連絡頂いた個人情報は、参加受付の目的のみに使用いたします

図 7 「女性のこれからの働き方、変える変わる」ポスター

○セミナーの会場風景



2.6.2 セミナー・アンケート結果

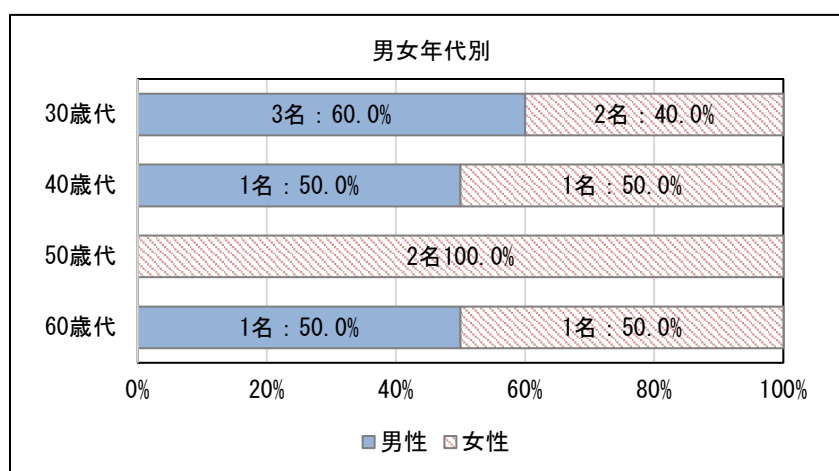


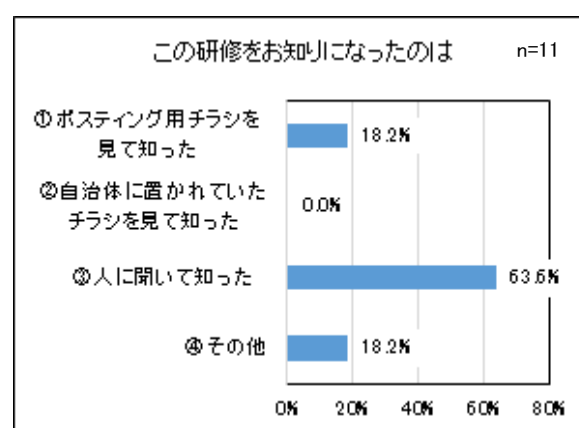
図 8 セミナー出席者男女年代別

○アンケートの結果は、以下の通りである。

(1)この研修をお知りになったのは

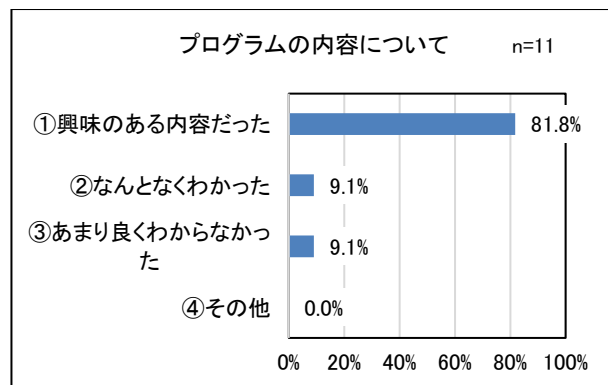
設問	人数	割合
①ポスティング用チラシを見て知った	2	18.2%
②自治体に置かれていたチラシを見て知った	0	0.0%
③人に聞いて知った	7	63.6%
④その他	2	18.2%
合計	11	100%

※その他：セミナー案内を貰った



(2) プログラムの内容について

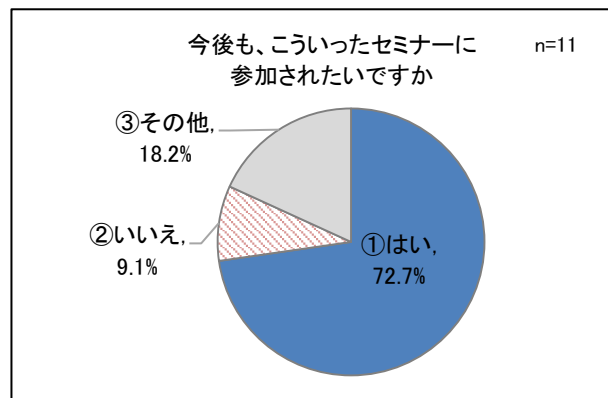
設問	人数	割合
①興味のある内容だった	9	81.8%
②なんとなくわかった	1	9.1%
③あまり良くわからなかった	1	9.1%
④その他	0	0.0%
合計	11	100%



(3) 今後も、こういったセミナーに参加されたいですか。

設問	人数	割合
①はい	8	72.7%
②いいえ	1	9.1%
③その他	2	18.2%
合計	11	100%

※その他：内容による

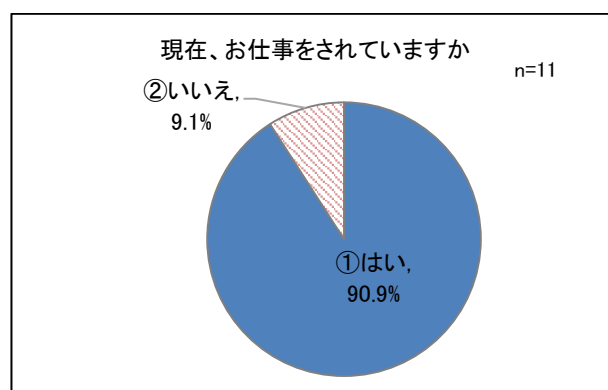


(4) 現在、お仕事をされていますか。

設問	人数	割合
①はい	10	90.9%
②いいえ	1	9.1%
合計	11	100.0%

※職種

社員・自営・パート・在宅ワーカー



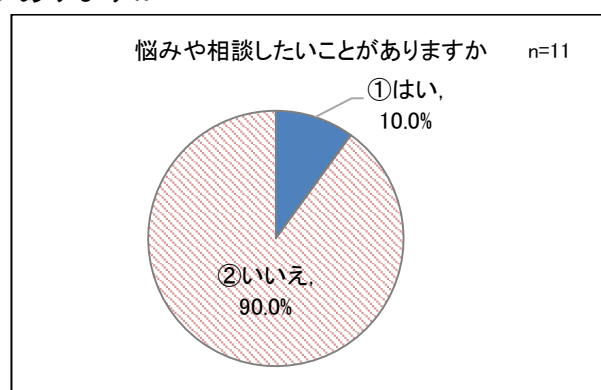
(5) 「4」で「いいえ」と回答した方のみ。現在、お仕事を探されていますか。

設問	人数	割合
①はい	0	
②いいえ	0	
③その他	1	

※その他：育児と両立できるなら

(6) お仕事について、悩みや相談したいことがありますか

設問	人数	割合
①はい	1	10.0%
②いいえ	9	90.0%
③その他	0	
合計	10	100%



第3章 本事業の成果

■本事業を始めるにあたり、以下のように成果目標を掲げた。

- ①企業・大学・行政関係者による包括的な研究会をスタートさせることにより、地域が一丸となって子育て、復職及び再就職、学び直ししやすい環境をつくる効果。男女がともに子育てをしながら、「安心して、学び、働く」環境整備を一体的に推進するための共通の議論の場をつくることは、これからの女性活躍推進において大きな意義がある（男女共同参画社会実現への意識・関心を具体的に促進する糸口にしたい）。
- ②地域の厳しい雇用環境において、女性の活躍を推し進めるのに有効な地域型リカレント教育カリキュラムを作成し、実施する効果（女性の意欲・資質向上に貢献、復職・再就職支援促進、離職防止等）。
- ③女性だけでなく男性の意識変革を促し、男性も女性も「安心して、学び、働く」地域モデルを提示する効果（被災地の仕事や子育てへの不安を軽減、または解消に貢献）。
- ④地域全体で積極的に女性を雇用し、女性のエンパワーメントを高め、モチベーションを向上させる機運を醸成する。

■本事業を通じて、以下のような成果・効果が認められた。

- ①女性のニーズ、企業側のニーズを踏まえ、地域連携を図り、企業・大学等のメリットを考慮した仕組みを形成することができた。
- ②産学官の協力によって、地域において女性が安心して働き、次のステップへの学び直しができる仕組みを作ることができた。来年度いわき明星大学、東日本国際大学において、リカレント教育プログラムに基づいた講座の開講を検討している。
- ③いわき市の仕組みをモデル化し、他地域でも展開できるようリカレント教育プログラムを作成することができた。都市部への人口の流出、事業の担い手不足などは、地方都市が共通に抱える課題である。そこで、ICT分野の専門家が不足している現在、ICTスキルを磨き、専門職につくことは、他地域でも応用可能である。また、「働く意欲を高めるための心づくりコース」のカリキュラムは、再就職・復職をめざす女性にとって共通の課題の解決をめざすものである。
- ④企業、大学において保育環境を整備することを提言した。子育て中の女性でも講座を受講することができるように保育環境を整えるよう提案をしていく。

株式会社いわきテレワークセンター
〒970-8026
福島県いわき市平字小太郎町3番地9
Tel 0246-35-1635